



キャリア支援室(常三島キャンパス)に所狭しと並び、県内外の就職情報資料。

## コロナの影響を大きく受けた21卒の就職活動

2021年3月卒業・修了予定者(以下「21卒」と言います。)の就職活動は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年にはない特別な状況になりました。

大学生の新卒採用はここ数年売り手市場が続く、優秀な学生を確保したい企業の採用活動は年々早期化しています。特に2020年は、夏に東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、首都圏を中心に交通機関等に大きな混雑が予想され、早めに採用活動を終わらせたいとする企業も多く、早期化により一層の拍車がかかるのではないかという見方が多くありました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大が、その状況を一変させました。2月に政府から出されたイベント自粛要請を受け、広報活動解禁となる3月以降、全国各地で開催が予定されていた大小様々な就活イベントが軒並み中止になりました。本学でも例年3月上旬に開催している学内合同企業説明会を中止にせざるを得なくなり、これを機に本格的な就職活動を始めようとしていた学生には大

きな影響がありました。大学への通学が制限される中で学生同士の繋がりがや情報交換をする機会も減り、大きな不安や孤独感を抱えたまま就職活動を進めた学生も多かったと思います。

こうした影響は学生に限った話ではなく、企業の採用活動にも影響がありました。イベントの中止などで学生との出会いの場が失われただけでなく、4月の緊急事態宣言以降は採用活動の中断を余儀なくされる企業も多く、一部の公務員試験も延期になるなど、結果的に採用活動の後ろ倒しにつながりました。

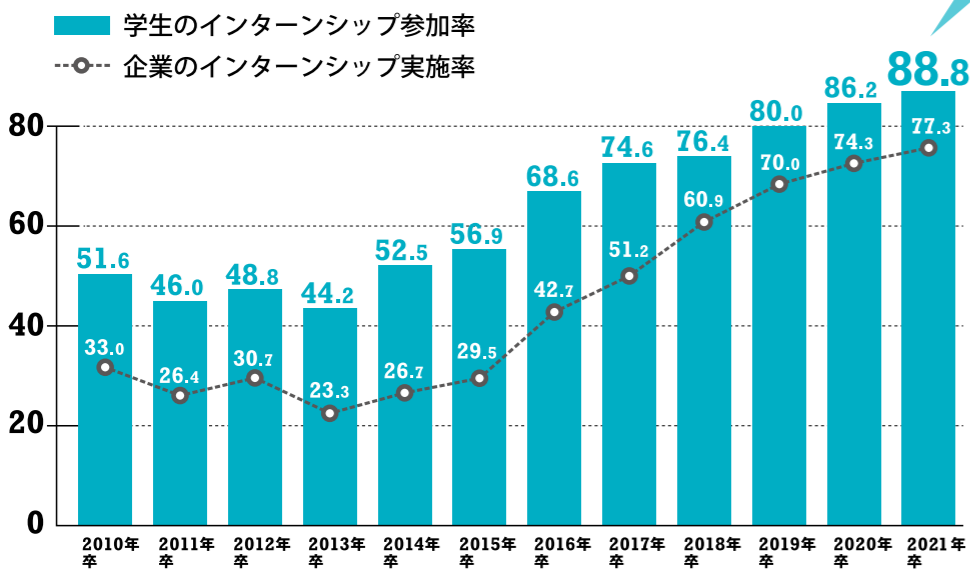
ただ、このような状況でもインターンシップに参加するなどして早い時期から企業との接点を多く持った学生は有利に就職活動を進めています。株式会社ディスコの調査によると、21卒では3月1日の内々定率が15・9%(前年比2・0%増)、4月1日の内々定率が34・7%(前年比8・3%増)と前年より高くなっています。コロナの影響により3月以降に新しく学生と企業の出会える機会が失われた一方、早い段階で接点を持った学生の選考が進んだことが窺えます。インターンシップは実施企業、参加学生とも年々増加しています。

特にここ数年は、インターンシップを就職・採用活動の始まりとして捉え、インターンシップを機に、早期の選考に進むケースが増えていますが、コロナの影響でその傾向が顕著になったと言えます。

# コロナ禍での就職活動と徳島大学の就職支援

キャリア支援室 就職コーディネーター  
三木 正久 (みきまさひさ)

## インターンシップ実施企業・参加学生の推移



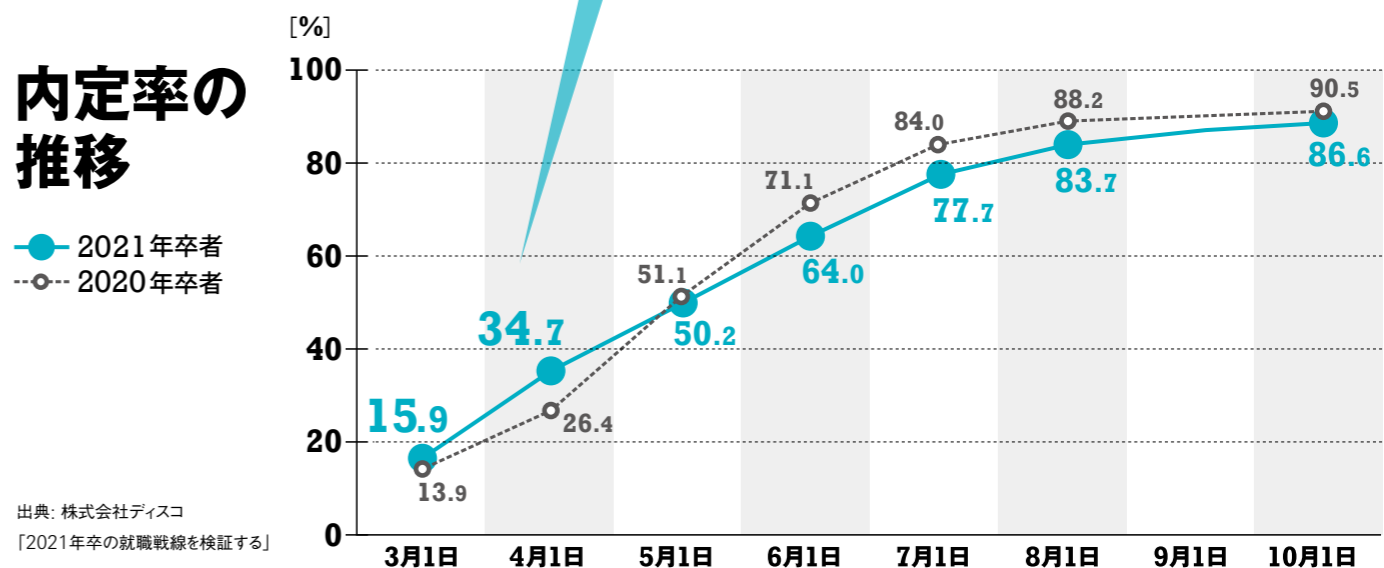
インターンシップ実施企業は8割に迫る

※「インターンシップ(就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1日以内のプログラム等も含めて算出。  
※学生は各年とも3年生の11月調査。  
※企業の実施率は、3年生時に参加と仮定して作図。2021年卒は2019年度実施。

出典: 株式会社ディスコ  
[2021年卒の就職戦線を検証する]

4月までは高水準、5月以降は前年実績を下回る

## 内定率の推移



出典: 株式会社ディスコ  
[2021年卒の就職戦線を検証する]

## コロナがもたらした 就活新常态

コロナの影響は企業の採用活動にも大きな変化をもたらしました。その代表的なものが会社説明会や採用面接のオンライン化です。これまででは会場に足を運ぶのが当たり前でしたが、移動や集合が制限される中でオンライン化が一気に広がりました。

オンライン化のメリットとしては、交通費や宿泊費、移動時間の負担が大幅に減ったことが真っ先にあげられます。地方の学生にとっては、自宅にいながら都市部の企業の選考を受けることが可能になったり、日程調整がしやすくなったことで選考を受ける会社数を増やすことにつながっています。企業側からは「これを機に地方の学生との接点を増やしたい」との声も多く聞かれました。

逆にデメリットとしては「面接で自分の魅力や熱意が伝わらないのではないか」といった不安や、最終面接まですべてオンラインでの選考になり会社の雰囲気がかからない状態で意思決定を迫られるなど、学生・企業の双方が互いの理解が深まらないまま選考が進んでしまうことなどがあげられます。

当初は、これまでにない動きに不安を感じる学生も多くなりましたが、どちらかと言えば好意的に捉えている学生が多かったように思います。コロナが終息したとしても、コロナ前に完全に戻ることはなく、オンラインでの説明会や選考は今後も続くと思われまます。こうした状況を踏まえ、キャリア支援室で実施している「就職相談」でもオンラインでの相談を始める

とともに、オンライン面接に特化したガイダンスを実施しています。21卒では急な広がり戸惑う学生も多くいましたが、22卒以降の学生は準備する時間がありますのでしっかり準備をして臨んでください。

### これから就職活動へ向かう皆さんへ

この原稿を執筆している時点（11月下旬）では、コロナの終息の兆しが見えず、経済の先行きも依然不透明な状況が続いています。今後、企業の採用意欲の低下、公務員志望者の増加など22卒以降の学生の就職活動は厳しくなることが予想されます。これから就職活

動へ向かう学生の皆さんは、後悔のない就職活動を行うためにも、早めのスタートと活動量を増やすことを意識してください。

21卒ではコロナという不測の事態が生じ、これまでの経験則が通用せず、学生・企業・大学とも手探りの中で就職活動・採用活動が進みました。先にも触れましたが早くから動いた学生に有利に働いたことは間違いありません。

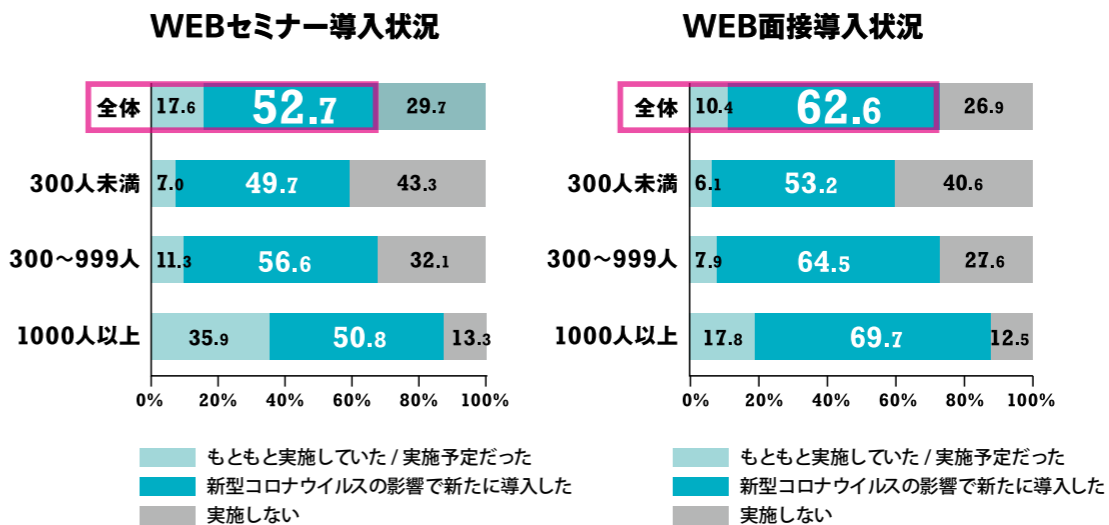
また、就職活動では自分のことを自分の言葉で他者に伝えることがとても大事です。インターシップや会社説明会への参加、OB訪問など多くの企業や社会人と接点を持つことで、自分に対する理解や企業理解を深めてください。社会で必要なマナーなどが身に付きますし、面接も場数を踏むほど回答内容が洗練されていきます。研究活動などで忙しいと思いますが、できるだけ活動量を増やしましょう。

最後になりましたが、キャリア支援室では、個別の就職相談や就活ガイダンスの開催、OB紹介などを行ってまいりますのでぜひ活用してください。また「このようなガイダンスを開催してほしい」といったご要望もぜひお聞かせください。就職活動は初めて経験する

ことが多く、不安が生じて当たり前です。些細なことでも構いませんので気軽にキャリア支援室にお越しください。

## 7割超がWEB化 大半がコロナの影響で実施

## WEBセミナー/ WEB面接実施 (従業員規模別)



出典：株式会社ディスコ  
「2021年卒の就職戦線を検証する」

# 就職内定学生の 就職活動体験談

## 総合科学部

● 社会総合科学科 4年

福岡 崇史（ふくまたかし）



就職活動を進める中で重要だと感じたことは、「一人で抱え込まないこと」・「取り掛かりを早くすること」・「必ず息抜きをする日をつけること」の3つです。

まず「一人で抱え込まないこと」です。今年は新型コロナウイルスの影響で、思ったように就職活動が進みませんでした。特に私は鉄道会社を志望しており、航空会社が採用中止を発表したこともあって、鉄道会社もこうなるんじゃないかと、かなり不安になったことを覚えています。そのような状況の中で助けになったのは、家族や友人の存在です。就職活動

は思った通りにいかないことがよくあります。私は、悩みや不安は思ったときにすぐに口に出すようにしていました。我慢して抱え込んでしまう方が良くないと思っていたからです。会話自体はたわいもないことでも、何か吐き出すだけで随分気持ちを保つのが楽でした。特に今年には面接もほとんどWeb形式で、人と話す機会がめっきり減ってしまいました。そんな時は家族でも友人でもだれでもいいと思います。悩みを直接打ち明けなくても、ほんのささいな会話でもきつと気持ちは楽になります。

次に「取り掛かりを早くすること」です。就職活動には内定というゴールがあっても、スタートは早いと思っています。多くの人は3年生の夏ごろからインターンシップに参加したりするでしょう。私もそうでしたが、就職活動は思ったよりも早く時間が過ぎていきます。エントリーシート、面接や筆記試験・Webテスト、面接と、解禁されてから対策していたのでは間に合いません。今年には選考開始が遅れたため、少し余裕をもって準備することができた一方で、急に予定が変わる可能性もあったので、いつ何が起きてても良

いように準備することは重要だと感じました。

最後に「必ず息抜きする日をつけること」です。私の場合は一切就職活動関連のことをしない日をつけていました。何もしないでいると不安だと思われる方もいるかもしれませんが、ここまで何度か書いたように不安な気持ちを持つまま進む方が良くないと考えていたので、定期的に気持ちをリセットする日をつけてモチベーションを保っていました。早く気持ちを切り替えられる人はそこまではなくてもいいのかもしれませんが、私は焦っても仕方ないと割り切るようにしていましたので、それが結果的には良かったと思っています。

## 医学部

● 保健学科 4年

久保田 雄大（くぼたゆうだい）

令和3年3月に徳島大学医学部保健学科放射線技術科学専攻を卒業予定の久保田雄大と申します。私は9月に岡山中央病院から内定を受けることができました。今回はその経験をここに記したいと思います。

### 就職活動を始めた時期

私が就職に関する情報収集を始めたのは6月頃です。進路担当の先生が4、5日の頻度でメールを送ってくれる求人情報の中から興味を持った病院に、病院見学を受け付けているかメールを送りました。送ったメールの数は7、8月で8通ほどになります。初めて病院見学に行ったのは7月の初めの頃です。7月から内定をもらった9月までに延べ5つの病院へ見学に行きました。

### 病院見学について

病院見学にあたって感染対策は勿論ですが、病院までの移動手段はどうするか、前日入りなら宿泊しなければならないものは何かなどは事前に確認しておかなければなりません。そして病院見学時では、積極的に質問することが必要です。

### 実際に就職活動をして感じたこと

就職試験対策に関して、国家試験の勉強がその一つです。小論文ではあらかじめ「こういうお題が



## 歯学部

●口腔保健学科 4年



寺崎 桃香(てらさきももか)

出たらこう書こう」とフォーマット文を用意しておくとういこともありません。病院によっては病院の理念や病床数を聞かれることもあります。病院見学時に現役の技師さんからどんな試験内容だったか聞けるタイミングがあれば聞いておくことをおすすめします。面接に際しても同様です。私の場合、面接でよく聞かれる質問や「この病院はこんなことを聞いている」という質問はちゃんと答えられるように日頃からメモ用紙に書き込んで練習していました。

### 後輩へのメッセージ

来年もどのような状況になるかわかりませんが、このコロナ禍でも可能であれば病院見学は行った方がよいと思っています。現場を自分の目で見て「この病院で働きたい」というモチベーションを高めるキッカケになるのはもちろんですが、履歴書の志望動機欄で述べたり、面接時に話題を膨らますことができるという利点があるからです。就職活動に対して不安な人もいるかもしれませんが、まずは行動に移すことが大切です。頑張ってください。

●理学部

私は企業の歯科衛生士となり、セミナーや啓発活動を通してより多くの人に口腔ケアの大切さを伝えたいと思い、歯学部でありながら企業就職を目指しました。

さて、今年の就職活動は、Webでの選考やイベントが半分以上と想像していた就職活動とは異なり、戸惑うこともありましたが、

私のWeb面接での工夫は、①リアクションを大きく伝えること、②カメラを見て話すこと、③環境づくりの三点です。まず、やはり画面越しの会話ではお互いの表情がスムーズに伝わりにくいため、終始全力の笑顔でリアクションしたり、相槌をオーバーにすることを意識しました。また、面接官は画面に映りますが、画面ばかりを見ていると、相手からは伏し目が見えてしまいます。しっかりとパソコンのカメラを見て話すよう気をつけました。そして、個人的には集中力や緊張

感が対面よりも薄れてしまいました。そこで、面接前には質問内容を確認しながら散歩をして緊張感を高めたり、面接の際には視界に余計なものが入らないよう、自分が集中できる環境を作りました。

さらにWeb選考だからこそ、履歴書の写真にはこだわりました。実際に対面できない分、明るく清潔感のある印象を与えられるよう、写真屋さんで人に撮ってもらい、調節をしていただきました。デメリットとして、伝えづらいうい点はありますが、必死に自分を伝えようとする姿を見せるよう努力しました。一方で、就職活動に関する交通費が浮いたこと、移動がない分、より多くの企業を受けることができた点でメリットも感じました。

オンラインでのやりとりが増えること、閉鎖的な就職活動になってしまいがちですが、だからこそ行動力は非常に重要です。積極的に就活イベントを探し、オンラインや時には出向いたりしながら、人との関わりを持つことで、刺激となり、モチベーションを維持できました。また、不安があれば一人で抱え込まずに、キャリア支援室の先生やOGの先輩などにその都度相談するようにしました。

## 理工学部

●理工学科 4年

●理工 大貴(かいほらたいき)



新型コロナウイルスにより、今年度の就職活動はオンラインでの説明会や面接が劇的に増加しまし

た。例年であれば現地に足を運ぶ為に多額の交通費が掛かっていましたが、オンライン化により気軽に参加できるようになりました。その一方で、オンラインだからこそ企業の雰囲気やわかりにくく、こちらの気持ちや伝わるのかという不安もありました。このオンライン化というのが例年と比較して一番異なる点で、最も重大な変化でした。ところで、私は県庁に就職を決めたのですが、ここでは面接に際しての経験を語ろうと思っています。

私が受けた県庁は、筆記試験と口述試験(面接)を通過しなければなりません。私は、生協の公務員講座を受講していたため特に試験対策に困ることはありませんでしたが、就職活動のオンライン化が普及する中でコロナの流行度によっては公務員試験も面接がオンラインになる可能性があるのではないかと考えていました。

実際、現地での説明会は軒並み中止になりオンラインでの説明会に代わっていききました。仮にオンライン面接ともなると、対面での面接とどのような違いがあるのか分りません。ならば実践あるのみ!と練習を重ねました。中でも相手から見ると画面越しに目を合わ

せられるようにした場合のこちらの違和感に初めは戸惑いましたが、練習のこいもあつて克服できました(正確には慣れた)。そして、いざ蓋を開けてみると公務員試験は全部対面でした。それでも話す内容自体は変わらないので難なく通過できました。今振り返り思うことは、面接で聞かれたことに関して暗記した文を喋るのではなく、話したい内容のキーワードだけ押さえておき、キーワードをもとにその場で文を考えて話す方が面接官からの印象が良いということです。

今回は就職活動の中でも面接試験について話してきましたが、大切なのは現状にいち早く慣れる事だと思っています。また、先を予測し行動する事も重要です。この文章が、少しでも多くの就活生の助けになれば嬉しいです。

## 生物資源産業界学部

●生物資源産業界学科 4年

●齊藤 満里絵(さいとうまりえ)



私が就職活動を始めたのは3年生の11月頃で、開始時期としては少し遅かったかもしれませんが、出身地の関西で働きたいと思いと大学で学んでいる食品の知識を活かしたいという理由で、まずは兵庫県内に本社のある食品メーカーのインターンシップに応募しました。インターンシップに参加するには、Webテストや面接を受ける必要がありました。殆ど準備をしていなかったため、直前に慌てて面接対策やSPIの勉強をすることにになりました。2年生の後半頃から少しずつ就職活動の準備をしておくべきでした。

私は部活動に余裕のできる3年生の冬に多くの企業を訪問しようと考えていましたが、新型コロナウイルスの流行により企業側の採用活動も自粛気味になり、インターンシップは1社、説明会は2社だけの参加となりました。自分の目で色々な会社を見られないことに不安を感じましたし、企業との接触方法がオンラインに変わったことへの対応には苦労しました。

特に採用面接に際して、自身自身のアピールに力を入れるのは当然なのですが、オンラインであっても相手に悪い印象を与えないように気をつけました。注意した

実際に私は、イベントから選考を通して一度も訪れたことのない企業に内定いたしました。不安が全くないわけではありませんが、OGの先輩や両親からのお話や人事の方、内定者の仲間とのコミュニケーションを通して、入社への決断をすることができました。

このようにコロナの影響で思いもよらない出来事もありますが、オンラインであつても周囲との関わりを持ちながら、オープンな環境で就職活動を行うことが大切だと思います。

## 薬学部

●薬学科 6年

●遠藤 ほのか(えんどうほのか)



今年の就職活動は新型コロナウイルス感染症により例年とは異なる状況でしたが、私は早期から準備を始めていたため大きな影響もなく進めることができました。私が就職活動を意識し始めたのは、薬局・病院実習が始まった4年生の冬でした。その頃は、「出

点としては、①相手側に暗い印象を持たれないように自分に最も照明が当たる場所を選ぶこと、②画面に占める自分の大きさにも配慮すること、③パソコンの画面を見ると視線が落ちて自信が無いように見えるのでカメラを見るように意識することなどです。そして、実際に自分がどのように見られるのか実家の家族に画面を確認してもらいました。利用する機器は、スマートフォンよりノートパソコンの方が印象は良いようです。

最後に、コロナ禍での就職活動を振り返ると、思うようにエントリーシートが通過せず、また、企業側のスケジュール変更が繰り返されるなど、想定通りに進まないことの方が多かったです。最後まで就きたい業種を諦めずに活動した結果、幸いにも第一志望の企業から内定を得られたことに満足しています。

これから就職活動に臨まれる皆さんの健闘を祈っています。